令和８年　５月　２２日

学校名　鈴鹿市立若松小学校

学校長名　田辺　浩一

令和８年度 校内研究実施計画書

１　研究主題及び教科

研究主題	自ら考え、豊かな関わりの中でともに学び合うこの育成
教科・領域	算数科

２　主題設定の理由

Ｒ７年の全国学力・学習状況調査とみえスタディ・チェックの結果より、算数の基礎基本な計算や立式の理由を説明する問題に課題が見られた。そのため算数科において、児童が数量や図形に関する基礎的基本な概念や原理・法則を理解して、問題を解決する能力を育成していくことが必要である。そのためには、児童一人ひとりが主体的に課題に向き合って、自身の知識や経験を基盤として多角的に考察する「自ら考える」姿勢を育成したい。また、他者との「豊かな関わりの中で」算数的な概念や思考方法を深化させたい。「ともに学び合うこ」を目指すためには算数科の学力向上のみならず、協調性やコミュニケーション能力といった土台となる社会性の育成も大切にしていきたい。そこで、研究主題を前年度に引き続き「自ら考え、豊かな関わりの中でともに学び合う子の育成」と設定した。

3　研究内容及び方法

児童の「自ら考える」力を高めるために、「個別最適な学び」となるよう既習事項を活用し、多様な解き方や考え方が生まれるような課題や場面を設定する。それにより児童自らが「見通し」をもって、情報収集や、整理選択を工夫して行えるようにしていきたい。「豊かな関わりの中で」学びを深めさせられるように、ICT 機器などの意見共有ツールを用いて多様な考え方を可視化して比較検討できる手だてを探りたい。また、児童同士の「豊かな関わり」を育成するために、児童会が主体となった行事や、各学級の「綴り方」の取組などにより、個々の非認知能力の育成に努め、関わり合える土台作りに取り組む。さらに、『深い学び』につなげるために、児童の振り返りでは「めあて」に正対した「振り返り」となっているか、何を学習し、何が分かったのかをとらえられているかの視点で研究を進めたい。具体的には、授業中に単元や本時の「見通し」を持たせ、学習方法を「選択」させていく。

若松小学校が考える「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現するために、授業中、児童全員に「全体のめあて」を与える。児童は「全体のめあて」を達成するために、「個人のめあて」の設定または選択をして、達成に向けて学習形態を選択する。最後に「全体のめあて」を達成するために設定した「個人のめあて」や「学習形態のふりかえり」を行い、次時の「個人のめあて」につながるように指導していく。

学び合いを進めていくうえで、課題に対して粘り強く取り組む姿勢や児童一人ひとりを支える足場となる学級づくりも大切にしたい。児童が授業中に「個人のめあて」を設定する際の手助けとして、ルーブリックを授業の最初に児童に示す。さらに、次時につながる「個人のめあて」につながるふりかえりを書く手助けとして、ふりかえりの例を示す。また、児童に「個別最適で協動的な学び」をすすめさせるために、まず教員同士が自らの課題を設定し、PDCA サイクルをまわし、学び合い、高め合う場の設定をしたい。

4　年間研修計画

一学期	・4 月 22 日（水）　第１回全体研修会 （今年度の研修の方向性・若松小学校の複線型授業について） ・4 月 23 日（木）　全国学力学習状況調査（６年） ・5 月 8 日（金）　第１回みえスタディ・チェック（５年）（４年） ・5 月 25 日（火）　全国学力学習状況調査・みえスタディ・チェック 採点・分析 ・6 月 25 日（木）　６年生　提案授業 ・7 月 22 日（水）　全国学力学習状況調査・みえスタディ・チェック分析 各学年での取り組みについて
二学期	・ 9 月 24 日（木）　３年生　提案授業 ・10 月 28 日（水）　なかよし学級　提案授業 ・11 月 16 日（月）　２年生　提案授業
三学期	・2 月　第２回みえスタディ・チェック（５年生） ・2 月　第２回みえスタディ・チェック採点 ・2 月　第２回みえスタディ・チェック分析 ・2 月 17 日（水）　研修のまとめ ・3 月　来年度の方向性について